

審判研修 道外派遣参加報告書

大会名 平成27年度全日本実業団 バスケットボール競技大会	期間 2015年9月12日(土)～9月13日(日)
開催地 埼玉県深谷市	会場 深谷市総合体育館
参加者 山崎 真吾	所属地区名 札幌地区
実践実技1	
日付け 対戦カード 相手審判 ゲーム前のカンファレンス内容など	
2015年9月12日 (土)	対戦カード 男子 ナカシマ vs イカイレッドチンプス
主審 山崎真吾	相手審判 早崎 氏(大阪 A級)
ゲーム前のカンファレンス内容 責任エリアの確認(エリア3、エリア4について) 判定基準の摺合せ、お互いの判定したものを感じて共通認識のもとゲーム運営	
ゲーム後、講師からのアドバイス 日本協会講師 平 育雄氏 クルーチーフとして、相手審判との情報の共有を早い段階で密にとってほしい。 そのなかで捨てるモノ、捨つけないモノの判定の整理をしてほしい 判定内容にこだわりを持ってほしい。	
ゲーム感想 ゲーム開始で勝負は決まっていた。負けているチームは判定以外のチーム事情の部分でストレスを持ちながらプレイをしており、時折その部分が判定に向いてくるときがあるゲーム運営としては少々稀な体験をした。 ファウルの判定基準としては、接触の事実と責任を確認しつつ、意図するプレイが成立しているかに重点を置いて トライしてみた。一点負けているチームのショットファウルについて苦しいファウルを吹いた事については非常に課題 が残った。平講師の言葉で、A級だろうとAA級だろうと関係なく、やることは変わらない。やるべき事(オフィシャルウォーニング等)どんどんやっつけていこう。という言葉が心に残った。	
実践実技2	
日付け 対戦カード 相手審判 ゲーム前のカンファレンス内容など	
2013年9月13日 (日)	対戦カード 女子準決勝 鶴屋百貨店 vs 滋賀銀行
第2副審	相手審判 中江氏(石川 AA級) 堀内氏(宮城 A級)
ゲーム前のカンファレンス内容 3人制のメリットをチームにも感じてもらうように、お互いの役割分担をやっつけていこう	
ゲーム後、講師からのアドバイス 北沢 あや子 氏(宮城 AA級) 前半、リードのポジション取りで位置が定まらない事で、相手審判との連携でかみ合わないシーンがあったが後半につれて修正できたことは良かったと思う。 プレイを受けに行った結果、動きながらの判定についてはセンターレフリーに任せてもよかったと思う。	

ゲーム感想

カニックについて非常に反省しなければならない試合でした。2人制と違いパートナーに任せるところやプレイの予測についても精度を高め早い段階での決断をするべきでした。判定についてもハンドチェックについてはマッチした判定ができたと思うが、ボディコンタクトについてはプレイが出来ているかを見極める精度を高め、もっと判定の内容を厚く考えないと思いました。

まとめ

今回、実業団連盟の中でのA級審判員を対象とした講習会でした。講師で来られていた平先生の言葉で「A級審判員は見つけた課題はゲーム中に修正をする、AA級はすぐに修正する。」「A級もAA級もやることは変わらない。」「審判員として一生懸命するということはどういうことか、考えよう。」という言葉が心に残り、道内の上級審判員にも伝えようと思います。

ファウルの判定については、コーチやプレイヤーの感じ方も道内と若干異なり、プレイが成立しているボディコンタクトについては、少々のコンタクトでもアピールやストレスをためることなくゲームが進行されていた。一方、手を使うプレイや、一貫性がない判定についてはアピールやストレスをためるシーンがみられた。

そういった点については、我々上級審判員がもっと努力をし、研究をしお互いの試合内容を意見交換しコートで背中を見せ、道内の審判員へ伝えていく必要があると感じました。

この度は北海道バスケットボール協会、北海道実業団バスケットボール連盟、札幌地区バスケットボールの関係各位の方々にはこのような機会を与えて頂き大変感謝しております。ありがとうございました。